

清野会長叙勲祝賀会開催

令和7年春の叙勲で「旭日単光章」を受章した清野直人会長の「受章祝賀会」が9月27日、JAふくしま未来サービス みらいホール掛田にて開催されました。伊達市長をはじめ、市議会議員等の来賓、関係者ら約80人が出席し盛大に祝いました。

清野会長は、平成8年に農業委員となってから29年間という長きにわたり農業委員会に在籍しており、平成18年には会長として、積極的な農業委員会活動を展開し、伊達市の農業振興に大きく貢献しました。この度の受章、誠におめでとうございます。



新任農業委員の紹介



保原町大柳 佐藤 俊一

(任期: 令和7年4月1日
～令和9年6月30日)

地域計画が策定されました

令和7年3月に、農業を担う者ごとに利用する農地を集積・集約し、10年後に目指す地域の農地利用の達成に向けた「地域計画」が策定されました。

今後、地域計画をより良いものとするため集落座談会などが開催されますので、積極的にご参加くださいますようお願いいたします。

全国農業新聞

月4回
金曜日発行
月額 700円

全国農業新聞は
農業委員会ネットワークが発行する
週刊の農業総合専門紙です。
ご購読申込は、農業委員会まで
(TEL573-5623)

編集後記

実の秋も終わり、新聞紙上を賑わせているのは、令和の「コメ騒動」や熊の出没情報。すべての始まりは地球の温暖化と昨今の異常気象による高温の影響と思われる。

コメが高いのは需給バランスの乱れであるが、熊は大好きなブナの実が山の中で少なく、人との境界線を越えて里まで降りてくるようになった。

里の遊休農地の隣には、手つかずのたわわに実をつけた柿の木がある。そんな荒れ果てた光景(畑)を伊達市では見たくない。

あなほ柿発祥の地、伊達市。産地を守り伝統を次の世代に引き継ぐため、私たち農業委員会は、遊休農地を作らない、解消に向けて日々取り組んでまいります。

◆編集委員

(編集委員 吉田浩重)

清野 直人 (会長)
大和田 俊一郎 (委員長)
吉田 浩重 (伊達)
遠藤 嘉男 (梁川)
大河原 明 (保原)
大橋 亮治 (霊山)
齋藤 勇二 (月舘)

伊達市 農業委員会だより

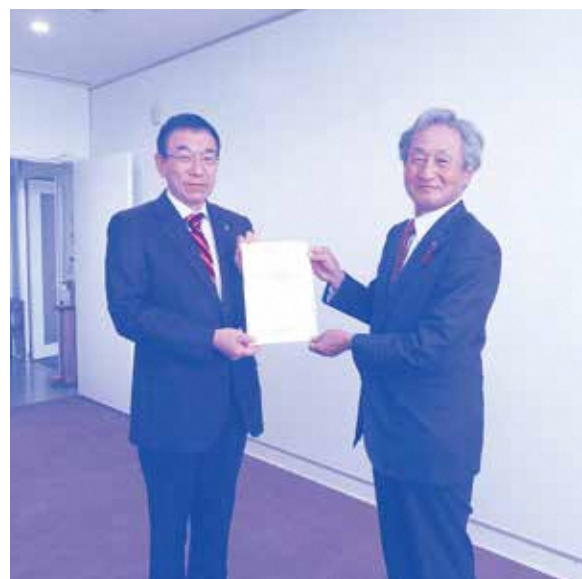
vol.
15



清野直人会長が令和7年春の叙勲で「旭日単光章」を受章し祝賀会が開催されました。

主な内容

- 市長へ叙勲受賞の報告をしました 2
- 農地パトロールの実施 2
- 市長へ意見書を提出しました 3
- 清野会長叙勲祝賀会開催 4



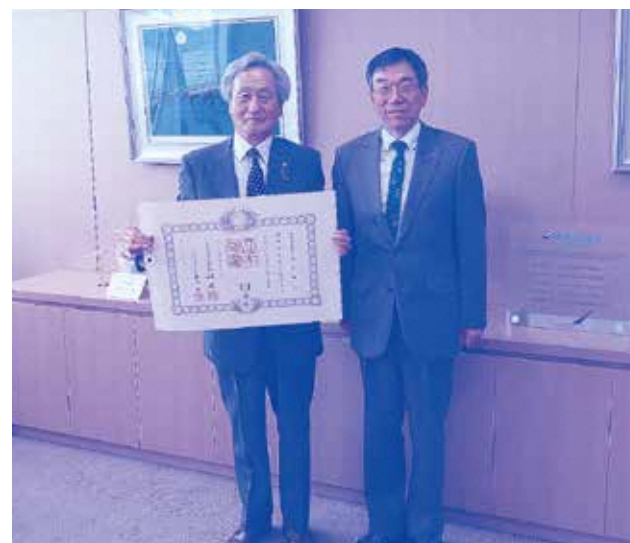
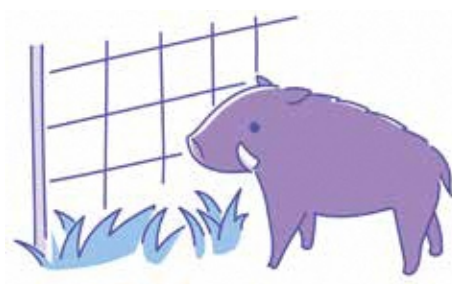
市長へ要望書を提出しました。

令和7年10月30日午後4時より伊達市役所において、「令和8年度に向けた農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書」を市長へ提出しました。現在の農業行政の課題やその対応に関する意見を6項目にまとめています。

また、遊休農地の解消や地域計画、有害鳥獣対策、農地バンクなどについての現状と、今後の対応について意見交換を行い、出席した委員から活発な意見が出されました。

- (意見書の概要)**
- 1 遊休農地の発生防止・解消対策について**
- (1) 地域計画の実現に向けブラッシュアップを行い、必要な予算措置、支援の継続
 - (2) 遊休農地を解消した際の補助金の創設や遊休農地活用などへの支援
- 2 農業後継者・担い手支援について**
- (1) 物価高騰対策として資材費等支援を継続
 - (2) 収入保険の掛金に対する支援継続
 - (3) 新規参入者が地域に定着できるよう、支援制度等の情報発信
 - (4) 農業経営の安定のため、収益性の高い作物への転換等所得向上への支援
 - (5) 認定農業者等の育成や就農者に対する報奨金制度の拡充など新規就農者や後継者の確保
 - (6) 定年帰農者や多様な形で農業に関わる者に対する支援等、包括的な農業後継者対策
 - (7) 先端技術導入への支援を行い、農業者の営農効率化・省力化を図る
- 3 原子力災害対策について**
- (1) 未だ出荷制限のある山菜等の状況改善等を東電・国への働きかけ
 - (2) 風評被害を払拭し、消費者が安心して

- 4 鳥獣被害防止対策について**
- (1) 深刻化するサル被害に対し、捕獲駆除計画の具体化や専門家による調査など個体数削減対策の検討
 - (2) 鳥獣被害対策実施隊の後継者育成支援
 - (3) 防止柵等の設置の補助要件緩和と、設置後の管理費に対する支援
- 5 防災・減災対策について**
- (1) 河川やため池機能維持のための適切な管理
 - (2) 田んぼダムの設置
 - (3) 農業者の熱中症対策に関する情報提供
- 6 農作物被害対策について**
- (1) 自然災害に対する翌年作付けに向けた支援
 - (2) モモ穿孔細菌病対策に対する支援



市長へ叙勲受章の報告をしました

令和7年5月26日、伊達市役所にて、清野直人農業委員会長の旭日単光章受章報告を行いました。

清野会長は、平成8年に旧霊山町農業委員となり、平成21年に伊達市農業委員会長に就任しました。若者の新規参入、耕作放棄地を解消し優良な農地を後の担い手に残すため、農地パトロールに取り組むなど、地域農業の振興に尽力してきました。



(農地所有者の方へ)

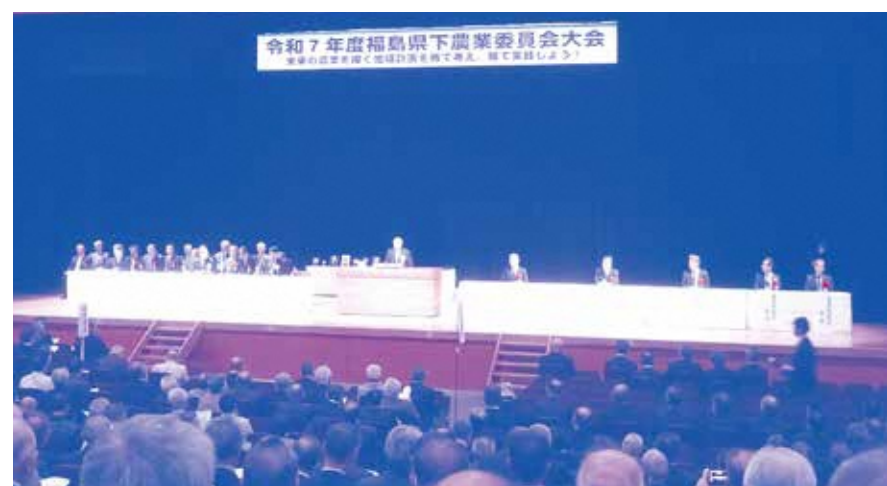
雑草が繁茂している遊休農地は、病害虫の発生等により、近隣の農地ばかりか、市民生活へ悪影響を及ぼす恐れがあります。農地を所有する方は、耕作や草刈りなどの適切な管理にご協力をお願いします。

農地パトロールの実施

毎年行っております農地パトロールを、9月から10月にかけて、市内全域で実施しました。農業委員会では、市内のすべての農地の利用状況を確認するため、荒廃の程度が判別しやすい時期に農業委員と農地利用最適化推進委員が担当地域を巡回し、遊休農地の実態を把握するとともに、違反転用の早期発見などを目的としています。遊休農地の発生原因は、担い手の高齢化による離農や後継者不足など様々ありますが、荒らしてしまった農地を再び耕作可能な状態に戻すためには多大な労力と時間を要することになることから、早期の発見が重要となります。農業委員会は遊休農地の早期発見と荒廃農地の拡大防止のため農地パトロールの強化に努めてまいります。



福島県下農業委員会大会に参加しました



令和7年度の福島県下農業委員会大会が11月6日、福島市飯坂町「パルセイイざか」で開催され、清野会長ほか11名の委員が参加してきました。各種表彰、県県に対する農業施策に関する要望の決議のほか、一般財団法人食品産業センター理事長荒川隆氏より、「食料安全保障と農政改革について」と題した講演を受けました。参加した委員は、真剣に聴講しました。